

業株の める

子と業務用チ

実効性の高

る同社の

の高い活動を行うことができます」 識を高める森永乳業グループのサポ

ープでは、 いる。 グル 労働安全衛生対策

「e-ラーニングなど、

私たちは60歳以降も安全に業務できる 職場を全員でつくります。理想の機

・重筋作業を減らす投資を進め作業負荷 軽減を図ります。

2 作業エリアの暑さを程減し集中力が維持できる環境・11にます

う作業をシングル いして不安全行動しない ひ着をします

4 TPM指動を通じて設備の動作を理解 し急険子が能力を高めます

5 ARKYT を追め安全地度を高めます

2025年4月1日

新年度となる4月1日に示され

高杉裕之

を人と設備がベストマッチで共存する

職場として取り組みます。

安全衛生分針

や指導があるため、現場ではより実効性 労働者の安全意

当が作成したe‐ラーニングを月1回く 業も含む全従業員を対象に本社安全担

> 毎年4月 りに注力することができる。 ではそれを実行するための仕組みづく 醸成のサポ も安全に業務ができる職場を全員で した労働安全衛生に関する学習、 理想の状態を人と設備が 2025年度は「60歳以降 日に安全衛生方針を打ち出 トがあるからこそ、 同社では 現場 意識

筋作業も含めた「全ての作業のバ 姿として取り組みます」 つ生産効率を上げられるように改善す まの状態では完成度が80点程度と考えて ることで、年齢、性別にかかわらず、 「設備の安全性や性能は、納品されたま 化」を意味しているという。 それを使用者が安全に使え、 作業環境を整え 私たちはそこ という目標を

チで共存する状態とあるべ 整えて や どを防ぐためでも 管理者の認識のず 使 ■会社概要 11 在地:山形県東置賜郡 にくさによる設備の不使用な 高畠町大字糠野日字

業:1919 (大正8) 年 敷地面積:17742m2 ミルクケーキ棟: 2179m² チーズ棟: 2143m : 「おしどりミルクケーキ」 「サクサクミルクチッ プノ、業務用チーズな

どの製造販売 従業員数:92人(2025年4月1 日時点)

代表取締役社長 兼

髙杉 裕之氏



月刊食品工場長 2025 年 7 月号

企業事例 2

制

孚 ア マッチ で共存 化を目指す

して設立された日本製乳㈱1919(大正8)年、地 「安全衛生基本ポリ 年に同社の代表取締役社長 作業環境を整えることで重筋作業のバ プ会社として ズの製造販売を手がけ いて取材した 地元酪農家1 事業を展開 ぉ しどりミルクケ 工場長に就任した髙杉裕之氏は 0 以来、 る同 3作業のバリアフリー化を図独自の安全衛生活動に取り %出資によるミルク会社と .社は、 ルを順守. 森永乳業グル 59年より 3. 59年より森永乳 などのミルク菓 いる。 2

「おしどりミルクケーキ」。フレーバーは全10種類

日本製乳㈱

最大重量 40kg 定格速度 500 mm/s



「重いものを運ぶ」とというでは、

かけてしまうことも:

現在重量を

重いモノこそ、だれでも自由に。



10kg~1t 重量物対応



100Vor 200V 電源駆動







いところで止められてきだけでピタっとトンの重量物を

電動バランサ Moon Lifter ムーンリフタ

記載の仕様およびデザインは、製品改良のため予告なく変更する場合がありますので予めご了承ください。



Moon Lifter

社: 〒103-0005 中央区日本橋久松町9-11

名古屋営業所: 〒451-0046 名古屋市西区牛島町2-5 TOMITAビル

Tel. 03-3639-6120 Fax. 03-3639-6130



ある。

この安全チェ るのが、

れから発生する事故

実際の使用者と

してい

ベラー が、実際にそうしたリスクが起こり得る クで指が挟まるリスクを指摘されました 事故につながります。 ようと挟まれたりなど、何げない挙動が 時に何かに引っかかかった状態を解消し 向くと設備に顔をぶつけたり、 ŧ 担当者が誰かに声をかけられて振り 「通常の使い方であれば問題はなくと はちょうどこの安全性の評価中 今回は安全チェッ 、設備起動

> たときの状況を、 のか。また、実際に指が挟まって 割り箸を使って検証し しまっ

備の危険箇所の抽出に役立ててい

る。

最近導入したばかりの番重オ

詳細に作業に潜む危険を洗い出

Ų

を設置した。今後さらに安全の評価を 策として機器の下部にエリアセンサ 指が挟まるリスクが確認されたため、対 設備の内側に足が入っ い、これをクリア さらに現場の声を聴き完成度を高 れ、そのず れを直すときなどに したら現場で使用 たはずみで番

めていく予定だ。 「管理者としてはけがをさせたくないの

> ます 性の両立をよく考えて『必要な対策だ』 り箸を使った検証を行い、 なく現場作業者も含め安全チェックや割 の予兆と考えるからこそ、管理職だけで があると洗浄の手間が増えたり、 全対策を施します。 で危険箇所にはセンサ しにくいと感じたりすることもあると思い 仕事がしにくい状態は不安全行動 一方で従業員はカバ やカバ 安全性と作業 ーなど、 仕事

> > て改革を続けて

いる。

と考え、

重筋作業に重点を置い

同社の業務の中で最も重筋作業が多

と共通の認識を持つことが大切です」(同 法:危険予知訓練を四つの手順に沿って行う手法(KYT(危険予知トレーニング)基礎4ラウンド

なってい

た。こうした状況を打開する

一部のマンパワーに頼り過ぎる状況と 善を図るまでは男性従業員が担当し、 く発生するのが原料の計量だ。環境改

べく

開梱室、

計量工程の設備を見直

一斗缶の搬送と練乳の入ったフ

異なる立場から安全を考える管理者・技術者・作業者

同社の平均年齢は45・3歳ではある

練乳の投入作業用に反転リフタを導入

㈱の電動バランサ「ムーンリフタ」と、 スずんどうの移載作業用にユニパルス コンバッグの絞り出し作業、ステンレ

ŧ 0) 0 製造現場で働く6代は10 人程

整った。

女性従業員も作業に従事できる土壌が

現在では計量作業の工程において



両手で直接持って自由にハンドリング

ムーンリフタはつり上げた重量物を

めました」(同)

できる助力装置。自動制御性に優れ、

クが外れてしまったときのフック

自由度が高いこと、また、

-クにかけ

る手の力だけで重量物を移動できること

展示会などで実際に試して導入を決

2 稼働中に扉が開かないよう、電磁 ロック式のドアガードを設置した「ス ライス設備」/3電動バランサ「ム ーンリフタ」を使ってステンレスずん どうの移載作業を行う女性従業員 /4 移動も可能な「ムーンリフタ」門 型タイプ/5 一斗缶の練乳を投入 するときの作業負荷軽減のために導 . 入した「反転リフタ」をデモンストレー ションする様子。粘度の高い練乳を 無理なく最後まで出すことができる / 6 製造部が設計から開発、設置ま で手がけ個包装品が外袋のシール にかみ込んだ製品を検査し異常品を 排除する装置。この装置の導入で検

可能なコンパクトさで、

門型クレ

9

ンリフタは、

狭い計量室にも設置

イプは移動も可能です。

こうした設置の

1 「番重オートレベラー」。フレームと リフターの挟まれ防止に設置したエ

リアセンサーを指し示す髙杉社長 品作業をなくすことができた

の跳ね返り防止機能やワ

- クから手を

用するための指導も行っている。 備の設計、開発、組み立てまで行 検討しているのだという。 樹脂でコーティングするなどの対策を チュエーションを想定して、 社では現場で起こり得るさまざまなシ 放すとすぐに停止する安全機能がもと らには現場従業員 備の保守点検業務に加え、 術部が担当している。 もと組み込まれているが、それでも同 こうした設備の改良は主に同社の技 への設備を安全に使 技術部は工場設 改良、 フックを 新設 さ

なので、

私たちが目指す食品製造につい

彼らに伝えることで具現化してもらっ

います」(髙杉社長)

せん。しかし、

私たちは食品製造のプロ

食品製造についての知識や経験はありま

「彼らはエンジニアリングのプロですが

発案で22年よりスタ

トした。

きる新たなチャレンジを、

髙杉社長の

解消し、相互に感謝の気持ちを実感で

技術部が現場作業の困り事を設備で

減するのと同時に、設備関連の多くを内 み出せません。従って、 なところになるとなかなか次の一歩が踏 率や安全性を高めるためにいろいろなア とだと思っています。現場の人は作業効 イデアを持っています。 たちの仕事は現場の思いを具現化するこ 取締役技術部長の簗川信幸氏は「私 トすることで現場の業務負担を軽 しかし、 技術的

ている。

り組みを、

ードウエア・ソフトウエ

日本製乳ではこうした労働安全の取

、・ヒューマンウエアの視点で運用し

全かつ使いやすいように改良を行い、

状態をあるべき姿」として、

現場が安

と設備がベストマッチで共存している

-ドウエアは前節までに述べた「人

製化することで会社の利益に つなげたいと考えています」

取締役技術部長 簗川 信幸 氏 Nobuvuki Yanagawa







無限

B



000



能力が40%以上増加した工程もあります たことで従業員1人が1時間に製造する した。また、一部には作業負荷が軽減し 「無災害継続日数が2100日を超えま 7 機器の修繕をする様子/8 TPM活動 の取り組みを分かりやすく伝える掲示板 / 9 無災害継続日数 2108 日を達成 (5 月15日現在)。現在目標を無限としてい る/10温水洗浄用のノズル。過去、水 を止めた後に蒸気でやけどをした作業者 がいたため、蒸気と水の混合詮を設置 し、手元の操作で温水を安全に出せるよ うに改良した/11 森永乳業グループの 安全方針にのっとり、地震対策が施され た包装資材の保管庫。必要なときにすぐ 取れる位置にヘルメットが常備され、確 実に装着できる状態にしている/ 12 パ レット移動時の事故や重筋作業を減らす

さらに、 加え、 で K Y 現物・ みだ。 実に結果に結び付いているという。 のこうした取り組みは、 る評価や能力向上を図っている。 るという一連の流れを教育することに 策をリスクアセスメントで再度評価す 危険箇所の評価・対策を実施。 業改善にもこの手法を取り入れている。 生産性向上と負担軽減を図るなど、 行うことで、 合を見える化」 備だけでなく、 を使った作業改善で、 設備の完成度ー 生産性の向上などの成果に対す 現実の三現主義を意識し、 ソフトウエアはTPMメソッド ヒューマンウエアでは現場・ とリスクアセスメントによる 作業エリアの整理整頓や するためのエフ付けを 工程ごと「作業の不具 0 0%を目指す取り組 同社の場合、 成果として着 その対 同社 現場 設 作

40%以上増 安全性と生産性の両立で

ため、連結平台車を順次導入

させて め など、 が根付いてきている。 ヤなどを手作りするなど、 やすいように作業台やロー 性を両立させる取り組み る機器の導入によって、 人の工夫に加え、 して「完成度100%」を目指す風土 するものと考え取り組んでいます」(同) こうしたことから安全性と生産性は両立 今では現場の作業者も自分が作業し 反転リフタ、 重筋作業の負担を大幅に軽減す いく考えだ。 番重オ ムーンリフタをはじ こうした一人一 安全性と生産 をさ 社の文化と ラーコンベ レベラ

月刊 食品工場長 | 2025.7

理由でできない作業がない環境に変え

髙杉社長は年齢や性別が

度在籍し、

50代後半がボリュ

ンで、

若手との二極化が進んでい

る。